

自治連よなご

第65号

令和6年(2024年)3月1日発行

発行 米子市自治連合会

(事務局 米子市総合政策部地域振興課内)

編集 『自治連よなご』編集委員会

五千石青風の会の取り組み

五千石青風の会 会長 緒形 誠



五千石青風の会は、地域の行事やイベントに10代・20代の青少年のボランティア活動に参加することを通して、地域の次世代の担

い手を育成するために発足しました。10代・20代の青少年期より、地域の活動に参加することで、地域との繋がりを深め、人間関係を構築し、地域の良さや地域の魅力を再確認し、次世代の担い手としての自覚を促しています。地域としても若手が参加することで、さらなる地域の活性化を図る目的です。

令和5年4月1日より発足してから様々なイベントや行事に参加させて頂きました。4月の米子つつじ祭りでは、45人のメンバーが参加しました。子ども会育成会の手伝いから各テントの手伝い、つつじの苗木配り、ビンゴゲームは賞品の買い出しから行いました。その他参加した行事は、五千石子ども万灯、福市遺跡清掃、



地区民大運動会、若鷹ペタンク大会、公民館祭、五千石小学校餅つき集会などに参加しました。11月にありました防災研修にてHUG（避難所運営ゲーム）にも参加し、地域防災にも力を入れています。

参加したメンバーの感想は「地域の人に久しぶりに出会った時に声をかけてもらってうれしかった。」「頼られるのが嬉しい」「出来る事をやってみたくて参加した。」「知らない人同志でたくさんの人でお手伝いする事が楽しかった。」などがありました。

若いメンバー同志も久しぶりに出会い、打ち合わせや買い出しなど当日までの間に仲間意識が強くなり絆を深め合い更に異年齢の交流により同年代との違った話で盛り上がる事で、更なるイベントや行事でのアイデアが生まれ相乗効果となり地域の大人達が完成までサポートする事によってイベントや行事の成功が感じられました。たくさんの若い力を外に出していける様に地域もサポートをしっかり頑張っていきたいと思います。



米子市自治連合会創立70周年記念事業へのご協力について

米子市自治連合会70周年記念事業委員長 奥田 登

平素より米子市自治連合会の取り組みに対して、ご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。令和5年に発足70周年を迎えるにあたり、地域コミュニティ活性化事業の一環として、米子市立図書館の移動図書館車の更新事業を提案し、その事業に伴う寄付をお願いしたところ、7,060,100円の寄付をいただき、昨年12月25日に米子市に対して寄付をさせていただきました。市民の皆さまが本に触れる機会が増え、または親子で会話を楽しんでもらう本との出会いを後押しします。

さらに、移動図書館車の側面等に自治会加入促進の広報ができるよう、PRにも工夫を試みました。電子書籍にはない、紙をめくる感触、誰かも手に取ったであろう「気配」を感じながら本の世界を楽しんでもらいたいと願います。

出費多端の折、皆様にご協力をいただきありがとうございました。会員各位には、益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。



魅力いっぱい！ 地域活動

藤の子フェスティバル 「打ち上げ花火」へ込めた思い

就将小学校PTA会長 永井 恵子

毎年、就将小学校の学習発表会の日、PTA主催の「藤の子フェスティバル」とセットになったひとつのお祭りのような一日でした。それがコロナ禍の影響を受け、地域の方との交流という役割も果たしていた「藤の子フェスティバル」は今までのような形での開催はできないままになっていました。そして、今年やっと制限のない「藤の子フェスティバル」が開催できることになり、就将PTAでは、その喜びとこの数年間の思いを込めて、みんなで一緒に楽しめる花火を打ち上げよう、という企画をたちあげました。準備段階では公民館の方の協力のもと、出来る範囲で地域の方へのお知らせを配布し、多くの方の参加を願い、周知させていただきました。

当日、うす暗くなってきた小学校の校庭の芝生の上に少しずつ人が集まり始め、それが打ち上げ間近になると暗い中にも本当にたくさんの方の姿が確認でき、それは小学生と保護者だけでなく、卒業した中学生、高校生、そして多くの地域の方たちの姿でした。いよいよ打ち上げの時間になり、そこに集まったみんなでカウントダウンをし、自分たちの「ゼロ！」の掛け声で最初の花火が

上がった時のみんなの嬉しそうな「どよめき」は、本当にやって良かった、と思わせてくれるものでした。

家族や、本当に身近な人として関わりを持つことができなかったこの数年間で地域の方との繋がりが希薄になってしまった子どもたちが、今ここで一緒に楽しんで、感動して、笑顔になって同じ思い出を世代を超えたいろんな人たちと分かち合うという経験を持てるきっかけとなれば、という願いは花火と共に少しずつ心に響いたのではないかな、と思います。

最後の花火が上がった後、みんなで大きな声で隣のグラウンドにいた花火師さんたちに伝えた大声の「ありがとう！」はすごく素直な喜びいっぱいの元気な「ありがとう」でした。



ちょっこしボランティア

ちょっこしボランティア代表 砂川 順一

河崎公民館では、3年前までは「環境部」として子ども達、また地域の方々への活動支援を行なって来ました。

しかし近年高齢者の増加にともない、何かこの方々のお力を借りることはできないものか、という気持ちから「環境部」という名称を、気軽に協力できやすいよう「ちょっこしボランティア（通称ちょボラ）」に変更しました。これは、「ほんの少しお力を貸していただけませんか？」



「ちょっこしボランティアしてみませんか？」という意味で、現在協力者を募って実施しているところです。

子ども達への活動支援では、田植えから稲刈り、脱穀、もちつき、そしてしめ

縄作りまで行います。この秋も楽しくもちつきを行ないました。

地域の方々との活動では、環境美化ウォーク（地域を東西に分け、1年ごとに交代で実施）で地域を美化するとともに、自分たちの地域はどのような場所で、何があって、ということを理解し、美しい景観を改めて認識していただいて、ますます地域を好きになっていただきたいなと思います。

その他さまざまな活動を行っておりますが、「住むなら河崎」「学ぶなら河崎」「楽しむなら河崎」を念頭に、今後も活動を続けていきたいと思っております。



ECCジュニア 西倉吉町教室

講師：永井 恵子

〒683-0816 鳥取県米子市西倉吉町 79

TEL：0859-21-1019

E-mail：best1yonago@gmail.com

美保動物霊園

ペット火葬

樹木葬

納骨堂

受付 ☎ 0120-124-619

美保動物霊園 [斎場・ホール] 米子市河崎1299

地引網In大篠津2023

大篠津地区自治連合会長 岡田 隆

快晴の7月30日、早朝から大篠津海岸にこどもたちの歓声が響きました。大篠津人づくりまちづくり実行委員会主催の「こどもふるさと体験！地引網In大篠津2023」で初めて生きた魚に触ったり跳ね回る姿に驚いたり賑やかな地引網と成りました。

ふるさと大篠津町を楽しく賑やかに盛り上げようと始まった委員会、昭和に乱舞していた蛍の復活活動、正月の門松造りと海岸での連凧上げ、2021、2022年はコロナ渦で行事が中止や延期になるなか少しでも夏の思い出をと打上げ花火など多様な活動を行ってきました。江戸時代にはわずか17キロメートルの弓ヶ浜半島に100統近くの網があったそうですが近年は海岸浸食や温暖化、担い手不足などで大篠津町の「多林網」を残すだけと成りました。この網元も急速な海岸浸食で継続が危ぶまれています。夏休みは海遊びが日課だった昭和、近年の猛暑では海岸に向かう人さえも見なくなりました。

水平線から昇る朝日、大山から延びるなだらかな弓ヶ浜半島と荒々しさを感じる島根半島に抱かれた美保湾、

いつ見ても美しい故郷の風景と自然の恵みを体験し我が町大篠津町を心に刻んで欲しいと企画したふるさと体験です。10数年前までは毎年開催していた行事ですが、果たして今の子供たちは興味が有るのかな？と不安な一面もありましたが当日は160人の保育園児、小学校のこどもたちと保護者の参加があり、熱中症予防の甘いスイカを片手にこの海岸で獲れる魚、触ってよい魚、毒のある魚など説明を受けて綱子さんが引き寄せた長さ900mの地引網を最後はみんなで引き寄せました。網の中には大きなスズキ、鰺、烏賊、ヒイラギ、真鯛など色々な魚が、毒のある赤エイも交じり早速事前勉強が役立ちます。大きな魚はこどもたちのじゃんけん大会の景品に、歓喜のこどもたちと少し困惑顔のお母さん、鰺は参加全世帯に配られ夕飯の一品に。大篠津海岸の白砂青松の美しさと多種の魚の自然の恵みはこどもたちにはどう映ったのだろう、将来も変わらない美しい海で有って欲しいと願う1日でした。



5年ぶりの沖縄楚辺子供会との交流

宇田川青少年育成会 会長 森田 陽介

米子市淀江町宇田川地区で主に活動しています宇田川青少年育成会は、今年の8月18日～21日の間、沖縄県読谷村楚辺地区において楚辺子供会との交流を行いました。

交流の起源は、平成6年8月に当会の前身である「宇田川っ子集まれ」で宇田川の子供と大人併せて36名が楚辺地区を訪問したことが交流の始まりと聞いております。それ以降毎年冬は、楚辺の子供達を宇田川の民泊家庭に招待し鳥取の生活や文化などを体験してもらい、夏は2年に1度、宇田川の子供達を楚辺の民泊家庭に招いてもらい沖縄の生活文化などを体験させてもらったりしました。宇田川地区および楚辺地区の方々に支えられながら行ってまいりました交流も今年で29年目を迎えることができました。

平成30年の交流以来、新型コロナウイルスの影響もあり夏・冬ともに交流を自粛していましたが、今年から約5年ぶりとなる、夏の沖縄交流を再会することが出来ました。

交流日程は3泊4日で楚辺地区を訪問し、平和学習や芸能交流、民泊体験といった子供達主体の交流を行いました。

子供達にとっては初めての飛行機搭乗や、初めての沖縄といったとにか初めづくしでとても貴重な体験ができました。この度育成会長として参加させていただきましたが、私の娘2人も連日沖縄の各民泊家庭に宿泊させてもらい、日に日に成長していく娘たちの姿を見てとても驚きました。今回の交流を通じて子供はもちろん、我々大人も沖縄の人の温かさに直接触れる事が出来てとても良い経験をさせていただきました。

この2月には楚辺の子供達を宇田川に迎え入れ、初めて見る鳥取の雪や、宇田川文化に触れてもらおうと計画しております。(本稿執筆時点)

宇田川青少年育成会は、今後もより良い交流ができるよう活動を続けて参ります。



UDAGAWAIKUSEIKAI

医療・保健・福祉 ホスピタウンネットワーク



医療法人
社会福祉法人

真誠会

米子ホスピタウン (河崎) 弓浜ホスピタウン (大崎)
米子中央ホスピタウン 外浜ホスピタウン 高齢者生活支援隊
(西福原、富士見町、皆生) (和田町、富益町、夜見町)

米子市河崎580 TEL 0859-24-5666 <http://www.hospitown.or.jp/>

鳥取県知事許可(般-5)第7590号

オーマ建設

〒683-0013 鳥取県米子市諏訪29

TEL 0859-57-4908

FAX 0859-57-7344

E-mail: ooma2017@sea.chukai.ne.jp

五千石青風の会 後援会

地域活動の感想画

米子市自治連合会 会長 田邊 忠雄



このたび、米子市小学校児童を対象に、第2回「地域活動の感想画」を公募しましたところ、多数の作品が集まりました。関係者の皆さまには心よりお礼申し上げます。

この企画は、自治会加入促進を意図して昨年からはじめたもので、各小学校の担当の先生方には大変お世話になりました。おかげを持ちまして、23校の小学校から延べ73点の応募を頂きました。作品につきましては学校関係者の1次審査に続き、米子市自治連合会常任委員（29名）の2次審査により20点の入選作を選び、その中から優秀作品等を選ばせて頂きました。いずれも力作ばかりで、「子どもたちの見た（感じた）自治会活動」が生き生きとカラフルに描かれています。こうして描かれた子どもたちの目に映った自治会は、やがて大人になった時に、地域活動の大切さを思う心に繋がっていくものと確信しております。

米子市自治連合会としては、小学生から頂いた絵画を様々な機会を利用して住民の皆さまに披露し、自治会の有用性、存在価値をアピールし、自治会加入の促進に繋がっていきたいと考えておりますの

で、皆さま
方の一層の
ご支援、ご
協力をお願い
申し上げます。

応募のあった作品
(入選作品の一部)



最優秀賞



優秀賞



優秀賞



優秀賞

自治会長研修会報告

米子市自治連合会研修委員長 新見 博士

令和5年度の自治会長研修は男女共同参画講座で、災害時における「避難所運営を女性の目線から考える」として、NPO政策研究所専務理事の相川康子先生を講師にお迎えして「いざという時のために一人ひとりが考える地域防災」と題して講演いただきました。

災害対応になぜ男女共同参画が必要なのか、講師自身が過去の大災害の現場に入り見聞された経験の中で、災害対応は男性だけでは対応し切れない、特に「避難所運営」においては、男性では理解できない、男性には相談出来ない（相談しにくい）まさに女性目線で対応しなければいけない事が多々ある。特に女性特有の心理面のケアが必要で、混乱する災害現

場で無意識に発せられる、女性への配慮を欠いた言動、災害弱者といわれる要配慮者の多様なニーズに十分配慮し、被災時の男女のニーズの違い等、男女双方の視点に配慮することが大切である、とお話しいただきました。

災害から身を守る（自助）、お互いが助け合う（互助・共助）の大切さ、普段分かっているようでも「いざ」という時に男女共同で対応出来る地域防災活動を展開していけたらと思う有意義な研修でした。



令和5年度 秋の叙勲 旭日単光章受賞 夜見地区 夜見四区自治会 会長 松本 眞氏

今年度になって各地区の自治会では、以前のような活動が少しづつ出来る様になってきました。コロナ禍で薄れた住民同士の絆が少しづつ戻り、これからは様々な地域活動が行われることを実感してきております。

各地区から今年の活動報告が上がっています。青少年の地域への貢献活動、PTAの活動、まちづくりふるさと体験、他県地域の子ども会との交流等、4年前の様々な活動が復活してきたことに嬉しさと共に、今後の自治会の活性化に大いに期待したいと思っております。

本号の記事は、若い世代の地域活動の参加行事が多く寄せられました。これから多くの地域に必要なのは、若い人たちが地域活動に参加して、地域の良さに気づき、地域のひと々と触れ合う事により自分の住む街を再発見することだと思っております。近年はどこの地区でも自治会活動を担う人の高齢化が進んでいます。今の若い人が将来地元に戻り生活する時、若い時に参加した自治会活動の経験は大いに役立つと思います。世代を超えた地域活動は大変重要なものです。大人の責任は地域全体で若い人を見守り、育てていくことです。そうすることで各地域に住み良い街になり、より良い地域活動が出来るのだと信じています。

終わりに今回記事をお寄せいただきました皆様にお礼申し上げます。

編集後記